

幼児の叱り方

子どもをほめて育てることはとても大切です。

“叱らずに生活したい”と思っていても、“やってはいけないこと”があることを学んでいかなくてはならない時期でもあります。知らん顔をして放っておいてはいけない場面がありますね。

それは

- ・ 危ないことをしているとき
- ・ 社会的に許されないこと、いけないことをしているとき
- ・ 人に迷惑をかけているとき

大人が子どもを叱るのはしつけのためです。何を教えるのか、何をしつけるのか、大人はその基準を明確にしておくことが大切です。

お家の方の思いを共有しておく、子どもに伝わりやすいかもしれませんね。

どうやって叱ったらいいの？

ほめるときと同様に、子どもの目線に合わせて、目を見て真剣に、愛情をもって叱るのがいいと言われています。



叱るときのポイント

① 子どものした行動を叱る

「ダメな子ね」、「おまえは悪い子だ」等人格を否定しないで間違っただけの行動に対して叱りましょう。

② 他の子と比較して叱らない

誰かと比べるのではなく、間違っただけの行動をしたときの気持ちを受け入れ、お父さん・お母さんがどう思ったのか伝えましょう。

③ その場で短い言葉で叱る

感情的になったり、ダラダラと叱ることは×。「あとでお父さんに叱ってもらいますよ」とその場に居ない人を引き合いに出さない。何時間も前のことを言っても行動と結び付けられず何を叱られているのかわかりません。

④ 次はどうして欲しいかを伝える

叱ったことに対して、子どもの行動が少しでも改善していたら、必ずほめましょう。ほめられることでより良い方向に向かうはずですよ。

⑤ 責任転嫁をするような叱り方はやめましよう

「そんなことをするとよそのおばさんに叱られるよ」と責任転嫁をするのではなく、それをしてはいけないと、お父さん・お母さんが真剣に思っていることをその場で伝えましょう。

⑥ 「ごめんなさい」の強要は無意味

叱った後に「わかった?」「ごめんなさいは?」と念を押していませんか? こどもは「ごめんなさい」を言えばよい、と勘違いをします。



ごめんなさい!

「ごめんなさい」、って言えばいいんだな

最後に・・・

ほめる・叱るのバランスはとても難しいですね。

お父さん・お母さんが疲れていると、お子さんのちょっとした事にもイライラしてしまいがちです。

感情的に怒ってしまったときは、子どもを抱きしめて「ごめんね。〇〇ちゃんのこと大好きだよ」の一言を!

また、叱る・叱られることは気分がいいことではありません。叱ったあとは気持ちを切り替えて、お子さんと楽しく過ごせるように工夫してみてください。

しかる

ほめる

